



日本大学 FD 推進センターでは、FD（教育改善）に学生の声を反映させながら、教育力の向上を目指すべく、「学生が変える日本大学」を基本コンセプトとして、学生・教員・職員が一堂に会して、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生 FD CHAmmiT（ちゃみっと）」を開催しています。

令和7年9月14日（日）に日本大学会館で開催された「令和7年度 日本大学 学生 FD CHAmmiT」では、事前に各学部で学生の意見集約を行い、「学部・学科独自の問題に対する意見」と「全学への提案が必要な意見」を整理・抽出した上で、どうすれば日本大学がより良くなるか、全学部の参加者（学生・教職員）でディスカッションや発表を行っていただき、最終的に参加学生から「全学的に提案できるグッドプラクティス（全学への提案が必要な意見）」と「他学部の視点を踏まえた自学部の課題に対する改善策」について意見がまとめられました。

これを受け、以下のとおり改善検討・対応を行いました。

1 「全学的に提案できるグッドプラクティス（全学への提案が必要な意見）」への対応

① 授業の改善

【主な要望】

- ・使用する学修管理システム（LMS）を統一してほしい

【改善の検討プロセス・対応結果】

日本大学では、令和6年10月に学修管理システム（LMS）として「Canvas LMS」を全学導入しています。Canvas LMS は Instructure 社が開発した世界シェアNo.1 の LMS で、ハーバード大学や MIT 大学など、海外の高等教育機関でも多く利用されています。信頼性と安全性に優れた Web ベースのシステムで、直感的な操作性に加え、大規模な利用や複数キャンパスでも安定して稼働すること、既存システムや外部アプリケーションと柔軟に連携できることが特徴です。日本でも東京大学や慶應義塾大学などで導入されています。

日本大学では現時点で 16 学部のうち約 60% の学部が完全導入しています。全学 100% 導入に向けて、説明会を開催するなどして、メリットやツールの具体的な使い方等について教職員へ浸透させる方策を継続しています。

加えて、日本大学 FD 推進センターが教職員を対象に全学部へ配布している刊行物「日本大学 FD NEWSLETTER」において、令和7年度は Vol. 27・28 の合併号とし、Canvas LMS を使用することで教職員や学生が得られるメリットや具体的な操作手順をより大々的に特集することとしました。これにより教員がマニュアル的に活用できるような紙面構成としながら、学生がより効率的・有効的に学修できる環境をさらに整備していきます。

② 学部間交流の活発化

【主要要望】

- ・課外活動で他学部の学生ともっと交流したい
- ・文化祭（学部祭）を利用して他学部の学生ともっと交流したい

【改善の検討プロセス・対応結果】

(1) 主として1年生（新入生）を対象とした学部間交流行事を新たに開催すること【機会の増加策】

＜検討の経緯対応策の詳細・期待される効果＞

課外活動における学部間交流としては、自主的な課外活動を側面から支援する「自主創造プロジェクト」、正課教育から離れて全学年が寝食を共にして交流する「達成体験型学生交流企画（リアル宝探し in 軽井沢研修所）」、スポーツを通じた交流である「日本大学スポーツ大会」、文化祭実行委員による「全学部等学部祭実行委員会交流会」、孤独に陥りがちな留学生を主な対象とした「留学生交流企画」等、既に様々な交流の機会を提供しています。

したがって、更なる機会の提供に当たっては、既存行事との棲み分けが重要であると思料されます。ついては、既存行事で最も不足していると考えられる「1年生同士の交流」に焦点を合わせることで、その他の学部間交流全体の底上げを図ります。

また、内容の棲み分けとしては、既に文化・体育を中心とした行事が開催されていることから、eスポーツによる交流を提案します。

eスポーツは、国際的にも高い注目を集めており、日本国内でも国民体育大会（現 国民スポーツ大会）のプログラムである全国都道府県対抗eスポーツ選手権が7年連続で開催される等、関心が高まっています。体力や技術に依存しないため、多くの学生が平等に参加可能で、関心を集められることから選定しました。

(2) 既に実施している学部間交流を活発化するため、学生周知用リーフレットを作成し、1年生（新入生）を対象に配布すること【周知の強化策】

＜検討の経緯対応策の詳細・期待される効果＞

上述のとおり本学では既にeスポーツ以外でも多岐に渡る学部間交流の機会を学生に提供しています。しかしながら今回、学生から改めて課外活動における学部間交流についての要望が多数行われました。その背景を類推・考察した結果、交流の機会が不足していることに加え、学生の間では本学の提供する学部間交流事業が十分に認識されていない可能性を懸念するに至りました。

ついては、その対策として「学生周知用リーフレットの作成・配布」を行う予定です。

リーフレットについては、初年時共通教育科目である「自主創造の基礎Ⅰ」のワールド・カフェ時に配布することで、学部間交流行事に対する認識度合いの底上げを図るとともに、ワールド・カフェ参加学生において学部間交流の機運が高まっていれば、次の交流を自然と促す効果も期待できます。

その他、リーフレットを活用する等することにより、公式ホームページ上において、これまで行っていなかった体系的な周知を行う予定です。それにより、入学志願者への訴求はもちろん、学生が入学後に学部間交流を思い立った際に、行事参加に結び付ける効果が期待さ

れます。

(3) グッドプラクティス賞を受賞した学部の提案である「日本大学文化祭バトンプロジェクト」の検討【実現に向けた具体的対応策】

＜検討の経緯対応策の詳細・期待される効果＞

グッドプラクティス賞を受賞した学部の提案である「日本大学文化祭バトンプロジェクト」を実現すべく、その方策を思案した結果、文化祭（本学では「学部祭」と称する）は、学生により組織されている学部祭実行委員会（以下「実行委員会」とする）が運営主体である実態に鑑みれば、実行委員会に対して検討を依頼する事が最良であるという考えに至りました。

ただし、実行委員会は通常、各学部の学部祭開催に向けて学部毎に活動していることから、学部祭同士を繋げるバトンプロジェクトを実現するためには、複数学部の実行委員会が協働する必要があります。

ついては、全学部の実行委員会が交流する「全学部等学部祭実行委員会交流会」において、実現に向けた検討を依頼します。

当該交流会の開催は例年では8月下旬であり、学部祭開催時期（例年10月下旬～11月上旬）を考慮すると準備等に要する時間等が不足してしまう可能性が否定できないため、当該交流会の開催時期を前倒することで実現可能性を高めます。

③ 図書館の改善

【主な要望】

- ・デジタル図書を拡充してほしい
- ・図書館の開館日・開館時間を拡大してほしい

【改善の検討プロセス・対応結果】

(1) デジタル図書の拡充の要望への改善対応

本学には、各学部分館において利用できる電子ジャーナルに加え、全学共通で利用できる電子ジャーナルを有しています。契約数は、国内 2,573 タイトル、国外 36,501 タイトルの合計 39,074 タイトルとなります。

これら電子ジャーナルは、学生・研究者に広く利用できる反面、同時アクセス数が不足し、利用が集中する時間にアクセスが出来にくい状況が生じていることも把握しているため、アクセス環境の改善に取り組んでいます。

本要望に対する対応として、第一に、本学契約の電子ジャーナルの種別、利用方法等を更に周知すると同時に、どのように学修に活かしていくのか等のレファレンスを含め、より有用に利用して頂けるよう環境を整えて参ります。

更に、絶版資料やシラバス参考図書、貴重書等のデジタル化を進める等、各学部図書館の特色を活かし、利用者からの要望も踏まえ、より質の高い電子ジャーナルの利用が可能になるよう精査を行って参ります。また、多くの電子ブックの利用も可能ですので、是非ご利用ください。その他、他大学等から論文を取り寄せる文献複写等の利用も可能ですので、各分館図書館の窓口にお問い合わせください。

(2) 図書館の開館日・開館時間の拡大の要望への改善対応

各学部分館における開館日程は、学事日程を勘案し、利用者の学修環境を効果的に補完できるよう定められています。併せて、各学部環境により、通学上のアクセスや、キャンパス内の安全管理等を総合的に勘案し利用環境を構築しています。最近、図書館を単に学修活動の場として利用する以外に、「居場所」としての要望についても認識しており、キャンパス内における活動拠点としての環境づくりにも心がけています。

更に、本学は、所属学部以外に、居住地区に近い学部の図書館を利用することも可能であり、通学先の図書館以外に、他学部の図書館を利用することが可能です。都心近辺に複数の学部を有していることから、他学部の開館状況等についても情報を得ることが出来るよう、周知の機会を検討して参ります。また、各学部図書館において他学部図書館の開館状況が確認できるよう、学内の情報共有体制を拡充する等、日本大学の総合性を活かした図書館利用の機会を提供できるよう、更に改善して参ります。

尚、図書館以外に自習等に利用できるスペース等については、各学部においてお問い合わせください。

2 「他学部の視点を踏まえた自学部の課題に対する改善策」への対応

検討・対応結果は、各学部のHP等に掲載しています。

学 部	リンク
法学部	https://www.law.nihon-u.ac.jp/life/fdchammit/
文理学部	https://chs.nihon-u.ac.jp/education/fd/
経済学部	https://www.eco.nihon-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/12/R7_FD_CHAmmitT.pdf
商学部	https://www.bus.nihon-u.ac.jp/education-information/#gsc.tab=0 ※「5 授業科目等に関する情報」に掲載
芸術学部	https://www.art.nihon-u.ac.jp/campuslife/registration/
国際関係学部	https://www.ir.nihon-u.ac.jp/guide/fd/
短期大学部三島校舎	https://www.ir.nihon-u.ac.jp/jc/guide/fd/
危機管理学部	https://www.crm.nihon-u.ac.jp/disclosure/data-4/
スポーツ科学部	https://www.css.nihon-u.ac.jp/media/r7fdchammitthoukokuspo.pdf
理工学部	https://www.cst.nihon-u.ac.jp/news/detail/20251209_2168.html
生産工学部	https://www.cit.nihon-u.ac.jp/news/00896.html
工学部	https://www.ce.nihon-u.ac.jp/newinfo/r7_fdchammit_report/
医学部	https://www.med.nihon-u.ac.jp/kyouiku/about.php ※「IV 教育研究情報及び財務情報」に掲載
医学部附属看護専門学校	https://www.med.nihon-u.ac.jp/nunc/news/2933
歯学部	https://www.dent.nihon-u.ac.jp/faculty/about/fd/
松戸歯学部	https://www.mascats.nihon-u.ac.jp/news/post/1437
生物資源科学部	https://www.brs.nihon-u.ac.jp/news/21100/

薬学部	https://www.pha.nihon-u.ac.jp/outline/fd/
通信教育部	https://www.dld.nihon-u.ac.jp/education_info/

以 上